

九重及花牟禮兩火山地質調査報文

囑託員：理學士 納 富 重 雄

第一章 位置

九重火山群ハ地質的阿蘇水道 (Aso geologic channel) ニ沿ヒ噴起シタル者ニシテ西南ニハ六里餘ヲ隔テ、彼ノ尨大ナル阿蘇火山ヲ控ヘ東北ニハ花牟禮火山ヲ擁ス、而シテ豊後富士ノ稱アル由布及鶴見兩火山群ト相呼應シツ、聳立シ、其海拔高距ヲ比スレバ遙カニ兩者ヲ凌駕シ就中久住山 (A-kujū-san) 小藤博士ノ推舉ニノ如キハ海拔一、七八七九「メートル」ニシテ實ニ九州島中ノ最高峰タリ。

其跨レル地域ハ豊後國直入郡久住村、同都野村、同阿蘇野村及玖珠郡飯田村ノ相接スル地方ニシテ其西端ニ位スル湯坪火山群ノ一部ハ既ニ肥後國阿蘇郡ニ入ル。

第二章 九重火山群四邊ノ地貌

該地域ノ高地ナル事實ハ其最低地ニ於テ尙且海拔四百「メートル」ヲ下ラザルニテモ知ラルベク、彼ノ筑後、大野及大分ノ三川何レモ其源ヲ此域ニ發ス。

●南斜面 多少ノ起伏ハアリト雖モ均齊ナル裾野ノ發達ヲ示シ火山特有ノ地貌ヲ有セリ、(a)其南方ニ位スル久住原ノ如キハ實ニ標式的裾野ノ發達ヲ示セリ、而シテ緩傾斜ハ南方ニ向テ凌夷シ終ニ竹田盆地ヲ見ルニ至ル、且該盆地ヲ中間ニ擁シテ遙カニ祖母岳、傾山 (延岡圖幅) (ニ入ル)ノ東西ニ連互シテ峭壁ヲ成セル連嶺ヲ眺ムヘク、(b)西南ニハ阿蘇火山ヲ控ユ、サレバ兩火山ノ裾野ハ相接シ傾斜互ヒニ漸移スルヲ以テ兩者ノ間ニ判然タル劃線ヲ描カンコト殆ンド不可能トイフモ敢ヘテ過言ニハ非ラベシ、而シテ該地域ハ大野川ニ注入スル諸支流ニヨリ浸蝕セラル。

●(c)西斜面 湯坪火山ノ西方外側ノ緩傾斜ハ其儘ニ凌夷シラズシテ又不規則ナル地形ヲ見ム、此レ主ニ阿蘇鎔岩及其レヨリモ古期ニ屬スル諸岩石ニヨリテ構成セラル、殘丘ノアルガ爲ナリ、而シテ又(d)西北遙カニ釋迦ヶ嶽火山臺地々方ヲ望ム、其前面ノ地域ハ筑後川ノ上流地ニ屬セリ。

●(e)北斜面 坦々トシテ些ノ起伏ナク地方奇景ノ一ニ數ヘラル、千町無田 (無田トハ沼澤地ノ意ニシテ往時ハ濕地ニテ只雜草ノ蔽フニ任ル、セシヨムタセシ由ナルモ今ハヨク開墾セラル、海拔九百「メートル」内外ニア)ト稱スル美ナル裾野ノ發達ヲ見レトモ、(其東方ニ花牟禮方ニハ又崩平山 角閃アンデシノ聳立スルアリ、而シテ該地域ハ獨リ玖珠川ノ浸蝕ヲ恣ニスル所ニシテ其水源涵養地ノ第一ト